

CLOSE UP わたしの経営指針



当社グループで定めている8つの経営指針のなかから、
ひとつをご紹介します。

文：鵜澤 泰功（代表取締役社長）

#6

最大のモラル（人格）と最小のルール

デジタル技術の進歩により誕生したグローバル金融経済は、経済的損得を唯一の尺度とする「ルール」によって世界を統一しました。ルールは、各国独自の文化や風土に根ざす「モラル」を容赦なく飲み込み、日本ならではの道徳観も置き去りにしつつあります。

組織におけるモラルとは、共通の価値観と信頼関係を基盤にする仲間たちが、現場で直面する問題に対して、自発的に考え行動することで生まれる規律です。もしモラルを捨て、グローバル金融経済のルールのみを持ってビジネス競争に挑めば、その先には勝者総取りの世界が待っています。我々のような中小企業は一瞬で吹き飛んでしまうでしょう。

もちろん私は、ルールを軽視しているわけではありません。グローバルスタンダード化した社会のなかで、ルールを遵守しない組織が生き長らえることは不可能です。しかしルールに依存し過ぎると、人は自ら

考えることを止め、組織は想定外の事態に対応できなくなるリスクが高まります。

当社グループの存在価値は、顧客である住宅事業者が抱える課題を直視し、解決に導くこと。自立した人の集まりによって自走する組織でなければ、課題解決への挑戦はできないと、私は考えています。

もはや個人が望む望まずに関わらず、世界はルール化に向かって突き進んでおり、その波に抗うことはできません。大切なのは環境変化を見極め、モラルとルールのバランスをとっていくこと。一定のルールは守りつつも、ギリギリまで出来る限りモラルに重きを置く。これは当社グループの個性を生かし、持続的に競争力を高めていくための大切な価値観なのです。

バックナンバーはこちら わたしの経営指針
<https://www.msj-group.jp/vision/businesspolicy/>

